

# 「アジアの品質」を発信

## AAPが 合同展 会員コラボの製品も

アジア・アパレルものづくりネットワーク（AAP）はこのほど、都内で「AAP 2018 19秋冬 展示会」を開いた。メイド・バイ・ジャパンのモノ作りをアピールするとともに、「メイク・イツ・パートナー」のテーマで縫製、二次加工、生地、付属、物流などの会員企業によるコラボ提案も行った。

（関連記事・8面）

合同展はこれまで二〇一二年と一三年に開催し各工場の技術レベルを紹介した。今回は五十六社の会員のうち十二社が参加、一社が出展協力を。会場がある中国、ベトナム、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、ミャンマーで手掛けた製品を出展した。

会員工場は現地に日本人を派遣し日本のモノ作りをコントロールしている。展示会ではこの「品質オペレーション」をメイド・バイ・ジャパンと紹介。小島衣料はパングラデシュのシームステープ使いをダウンやアスレジャーに取り入れた。湯峰ソーイングはベトナム製の「縫い目が見えないダウン」を提案。レナニミツアキはベトナム工場の技術を生かしたウールコートを出展、ロックスはカンボジア縫製の婦



メイド・バイ・ジャパンを訴求したAAP展示会

人カジュアル、OMPは中国で手掛けているハンドメイドのリバーシブル

などを紹介。またメンズでは高間が中国工場を使ったハンドメイドのオーダースーツを出展した。

同時に第一織物の高密度織物でサンティがジャケットを製作したり、サンウエルのベトナムやASEAN製の生地で寝島刺繍とフリセット五島が刺繍やフリツを手掛けた。実谷の裏地や東海サモの芯地などを活用した製品も展示した。